

第2回 幼保小連絡会の

まとめ

＝17小学校区における話し合い＝

日時：平成30年(2018年)

1月15・18・19・22・23・25・26日・2月2日実施

会場：17会場…小学校・認定こども園・幼稚園・

保育所(園)・児童発達支援センター

螢池・刀根山小学校区

【参加人数】小学校（8）名 こども園（13）名 保育園（7）名

1、グループ交流

今年度全体共通テーマ：「幼保小教職員連携を深める中で子どもにつけたい力とは」

第2回連絡会テーマ：「話を聞く、自分の言葉で伝える力をつける」

「自分を大事にする・自己肯定感を持たせる」

各校園で取り組んできたこと、その成果と課題について話し合い発表した。

○「話を聞く、自分の言葉で伝える力をつける」

- ・授業で座ってられない、落ち着きがないのは行動欲求を出している。それを抑えるのではなく活動の中に歩くなど行動を入れる事で一度リセットさせてから進めていくようにしている。
- ・授業45分で考えるのではなく短いスパンで考えていく。あと机の上には必要なものだけ置いておく。
(教科書や筆箱、ノートも必要でなければなおす)
- ・静かに物事を考えさせるために座禅を取り入れていく中で落ち着いてきた。
- ・話を聞いてあげること、大切にしていあげることによって話を聞くことができるようになっていく。
- ・誰に対して話すのかが分かるように呼びかけから話して聞ける態勢を作る
- ・いまどんな気持ちカードを使い、いろんな気持ちがある、自分の思いを素直に伝えてもいいんだと分かるように取り組んでいる。
- ・発表しない子は人と意見が違うという事に不安があり発表しない姿があったが隣同士で話し合い相手の意見を発表するという取り組みに変えるとすんなりと言っていた。

○「自分を大事にする・自己肯定感を持たせる」

- ・知能遊びに取り組んでいるが間違いは絶対に否定せずどうしてそうしたのか聞き出す中で子どもが間違いに気づけるように声をかけている。出来た、出来てないではなく取り組んでいるのがすごい事を重点に置く中で自分の考えが認められてやってみようという気持ちができるようになってきた。
- ・グループ発表をする中で見ている子どもが応援してくれたり手伝ってくれたり、発表している子を尊重されるようになってきた。受け止めてもらう経験を重ねながら聞く力、自己肯定感が高められる。
- ・4人グループでグループ名も自分たちで決める。先生が指示するのではなく、子ども達が考えていけるようにする。行事を通して関係作り、人を助けることで自己肯定感を高める。
- ・和太鼓の取り組みを通して自分たちの希望やオーディションで頑張りが褒められる経験を積み年間を通す中で自分の成長が見えることで自信や自己肯定感につながる。
- ・生まれた時のことを聞いたり学び、自分は大事にされていると思えるようにしている。

2、まとめ・課題

- ・失敗するのが怖くて人の前ですることが嫌な自己肯定感の低い子どもが多い現状があるので、小さい目標を立てて出来るとご褒美のハンコ等子どもの意欲が持てるようにしていく。
- ・大人がどんなに小さくても自分の気持ちがあることを頭に置き子どもが選べることを大事にしたり大人が動かすのではなく声掛け、促しながら子どもが自分から動きたくなるようにしていく。

桜井谷・桜井谷東・箕面自由学園小学校区

【参加人数】 小学校(8)名 こども園(5)名 幼稚園(8)名 保育所(園)(5)名 児童発達支援センター(1)名

1. 基調とした発表

●箕面自由学園の発表

年長児の当番活動として、1クラス7つのグループに分かれ、①給食②掃除③絵本④時間⑤トイレ⑥お助け(残りの1グループは1日お休み)の6つの活動を毎日グループ毎に取り組んでいる。初めはしなかった子どもも次第に自分で取り組むようになってきた。時間係は、各活動の前に手作り時計の針を動かして終わりの時間に設定し、子ども達が目安を持ち時間内に終わることができるようにしている。活動の時間は、午前中は絵画や製作などみんなで同じ課題に向かえるような活動を取り入れてきた。4月は30分から始め、40分、1時間と1年間で少しずつ時間を延ばし、今では1時間半集中して活動できるようになっている。また、少しずつ長時間椅子に座って集中できるようにする中で、“文字を読む・書く”だけでなく、少しでも興味を持ち遊びながら楽しく覚えられるようにゲーム感覚で活動を取り入れている。食事面では、1学期は食べることに時間がかかっていたが、小学校に向けて少しずつ時間を短くし、時間内に食べ切られるようにしている。降園前には、毎日絵本の読み聞かせを行っており、少しずつ長い物語を読んだり、3学期には絵のない本を読むなどして子どもが想像して楽しめるようにしている。小学校の生活を意識した活動を取り入れ、子どもが戸惑うことなく、また保護者の悩みも受け止めながら、それぞれが安心して小学校へ向かえるようにしていきたいと考えている。

●桜井谷東小学校の発表『心豊かに生きる力をもつ子どもの育成』

1年生では『①あいさつをしよう②なかよくしよう③ルールをまもろう』の3つの目標を子ども達に出来るようになってほしいと1年間取り組んできた。入学当初は自分のクラスが分からない、立って靴を脱ぎ履き出来ない、名前が読めない等の子どもがおり、一つ一つの物事を丁寧に伝えていた。1学期は、スタンプラリーを使って楽しく学校探検をしたり、兄弟学級を通し少しずつ学校を知ることができるようにした。給食を配膳する際エプロンの着用が難しそうだったが、子ども同士で協力し合って着る姿が見られた。1学期で自分がしないといけない事やクラスの事が分かってきたように感じた。2学期には運動会、学習発表会等の行事があり、積極的に取り組む姿が見られた。クラスの枠を越えて取り組むことで、自分だけではなく友達と協力して作っていく大切さについても学べる貴重な時間となり、子どもにとって大きく成長できるものになった。学習面では、なるべく先生と子どもの1:1での授業にならないようにペアトークやグループトークを取り入れ、友達と話す・聞くという機会を沢山持てるようにしてきた。今年度の1年生は、自分の話をするのは好きだが、相手の話を聞くことが難しい子どもも多かったので、“『ききめいじん』になろう”ということをや日々伝えている。聞く際には、相手を見る・メモを取る・物を思い浮かべるなどの具体的な方法を伝え、連絡帳を書く時にもメモの取り方を伝えることで習慣付けている。様々な園で過ごしていた子ども達が同じ場所で過ごすこととなるので、クラスのルールを統一していくことの難しさを感じたが、1年間を通し、学校での生活ルールが分かったり、自分の事を自分でできるようになり、前向きに意欲を持って学習にも取り組むようになってきた。また、初めは同じ園の友達だけと遊ぶことが多かったが、他の友達と遊んだりクラスあそびにも楽しく参加する姿を見ると多くの友達と仲良くなってきたことを実感している。

2. 話し合った内容(グループディスカッション)

各幼稚園・保育園、各小学校の子ども達の姿と現状や大切にしたいことを話し合った。

『入学までに付けたい力』

- ・見通しを持つ力
- ・周りに困ったことを言える(自己主張)
- ・人の話を聞ける
- ・自分の名前を読める
- ・遊びを通して興味を持つ

『小学校に上がってから大切にしたい事』

- ・幼稚園、保育園での“楽しみながら”ということを崩さないように学習に取り組めるようにしたい。
- ・保護者との連携が取りにくいので、学級通信を通してクラスの様子を伝えていきたい。
- ・個人差が大きいのでいろんなことに取り組みたい。
- ・視覚的教材に頼りすぎると、子どもの聞く力が身につかないのではないかな。

3. 今後の課題・まとめ

入学後に子どもが戸惑うことなく安心して生活ができるように、今後も幼保小それぞれの子ども達の姿や現状・取り組みを伝え合い、交流を大切にしていきたい。

克明・箕輪小学校区

【参加人数】 小学校(6)名 こども園(6)名 幼稚園(2)名 保育所(園)(3)名 児童発達支援センター(0)名

1、 基調とした発表・

<箕輪小学校の取り組みについて> 箕輪小学校 1年担任 レジюмеあり。

「みんなちがってみんないい」を合言葉に取り組みを箕輪小学校では行っている。具体的な取り組みの中で、人権と図工に力を入れているようである。最近の1年生は、指示を待っていたり選択肢を与えないと、動くことが出来ない子どもが多い。箕輪小学校が掲げている、自己肯定感を高めていく必要があることを念頭に学年の取り組みを続け、2年生に引き継いでいきたい。

<おかまち保育園の取り組みについて> レジюмеあり。

年間の4つの目標を掲げ、取り組みを行っている。中でも、「聞く力」と「話す力」に力を入れている。子どもたちが、昼食を終え仮眠をする前に絵本を読む時間を取り入れている。

4月からこの取り組みを行い、今では70ページほどの本を一気に読んでも、きいて理解することが出来るようになってきた。話を子どもたち同士で進めていく際、「ごめんね」だけではなく、「つぎからはしないでね」と約束をするようにしている。この1年で進めてきた取り組みを通して、相手の気持ちを考えたりすることも出来てきている。自分中心だった子どもたちが、小学校へ向けて成長していると感じている。

2、 話し合った内容

- ・保育園ではこどもひとりひとりにかかる先生が多い。小学校になると先生との関わりが少なる事に不安を感じている。自園での取り組みとして、「やめて」「いいよ」だけでなく、自分の気持ちを添えながら相手に伝えられるように言葉がけしている。(岡町保育園)
- ・喧嘩をすると先生に助けを求めにくることが多いのが気になる。見守りながら子ども達同士のかかわりを大事にしていきたい。(克明小)
- ・入学した時点では環境がかわり戸惑っている子どもやたすけを求めにくる子どももいる。幼保時代にできていたことも、環境がかわるとできない姿がある。
- ・「気持ちカード」をとりいれている。帰りの集まりで、自分の気持ちを表したカードと名前をはりともだちの発表をきいたり、自分の発表する中で自分の言葉として獲得していけるようになる。ディベートの時間をつくり、伝える力・聞く力が育ってきた。(とねやまこども園)
- ・1年生だからできないと、思っていたことにきづかされた。1年生だからできないのではなく、いろいろな経験の場を与えることが大切。(克明小)

3、 今後の課題・まとめ

- ・一人のこどもが成長していくなかで、様々な教育・保育機関が、かかわっている幼・保・小・中・地域が連携をとりあって、子どもの姿を見守り、つなげていきたいと、感じた。

大池・少路・上野小学校区

【参加人数】小学校(12)名 こども園(4)名 幼稚園(7)名 保育所(園)(9)名 児童発達支援センター(0)名

1、 基調とした発表

テーマ『友とつながる力を育てるための幼保小連携』を元に「子どもの様子、各施設での時間の過ごし方、大切にしていること、就学前に段差をなくすためにどんなことを育ててほしいか、必要か」 などについて全体で交流した。

2、 話し合った内容

- 基本的な生活については、例えば、もめ事を解決する時に、今までの経験でどうしたらいいかを話してくれる。しっかり指導してもらっていると感じた。(上野小学校)
- 自分の気持ちを伝えるだけでなく、人の話をしっかり聞くことを大切にしてきた。園の中では一番上の学年として、いろいろな事を自分で判断できるようになってほしいと思っている。(のばたけこども園)
- 支援が必要な子が多く、視覚支援や実演することで、伝えてきた。話が聞けるようになるためには自分の話を聞いてもらった経験が必要になる。保護者にも協力してもらって取り組んできた。(本町こども園)
- 行事を通して協力することが出来るようになり、友達が困っていたら助け合っている。6年間同じ担任、クラスなので小学校に行くことに不安があるが、わくわくできることを大切にしている。(たまい保育所)
- 保護者が全て用意する姿もあるので、自分の事は自分でできるよう生活の見直しをしている。姿勢が悪い子が多く体幹が弱い。イメージを広げて遊ぶことが弱いので、そこも大切にしていきたい。(神童幼稚園)
- 0, 1, 2歳児だけの小規模保育園。3歳児保育へのつなぎを、小学校を見通してしっかり考えていきたい。交流の内容を、園に持ち帰って伝えたい。(そらのつばさ保育園)
- 人数が少ないので近隣の園と交流している。一人で小学校へ行く子も多いので自分は、愛してもらっていると感じて、自己肯定感が持て、安心して過ごせるようにしていきたい。(聖ミカエル保育園)
- 習い事に行っている子が多いので、幼稚園では集団遊びを大切にに取り組んでいる。しつけ表を作って、服を着替えるなど何分までできるかを家でチェックしてもらおうような取り組みをしている。(豊中文化幼稚園)
- 小グループで制作をするなど子どもたちだけで考えたり話し合うことを大切にしている。お約束表を作って、荷物は自分で用意するなど目標を決めて取り組むこともしている。(東豊中幼稚園)
- 年少児とかかわる活動をすることで、自信につながっている。集団の中で、上手くいけないことを保護者に伝え、保護者とねらいを共有して取り組んでいる。(緑ヶ丘幼稚園)
- 3学年の縦割り保育をして、育ちの幅の大きい集団で過ごすことで、それぞれが主体性を発揮して遊んでいけたらと考えている。肯定的につながる仲間として育ってきている。(あけぼのぼんぼこ保育園)
- 集団で楽しもうと思うと、一人一人が少しずつ我慢しないといけないということを伝えている。生活がスムーズなのはこれまでのベースがあってこそだと思うので、それは大切にしたい。(大池小学校)
- 順番に並ぶ、片付けるは何も言わなくてもできていた。自分の物差しで測ってきつい言い方になったり、〇〇したらあかんとトラブルになったりしていたが、思いやる力が育ってきている。(少路小学校)

3、 今後の課題・まとめ

- ・ こども園、幼稚園、保育所(園)では、少人数で子どもたちが話し合って協力するような遊びや取り組みがあるが、小学校では活動としては少ないと思う。そのような取り組みの機会を持たらと思う。
- ・ 各園で、丁寧に取り組みできていると感じた。今の子ども達は、スマホやビデオで過ごしていることが多いので、自分から「こうしよう」「こうしたい」と動くことが少ない。子どもの関心意欲を育てる必要がある。

野畑・北緑丘小学校区

【参加人数】小学校(5)名 こども園(4)名 幼稚園(6)名 保育所(園)(4)名 児童発達支援センター(0)名
2チームに分かれ交流会の内容を紹介し、引継ぎについて話し合う

1、 新1年制交流会の内容

- 校歌の紹介・歌・ゲーム・メダルのプレゼント・1年生による1日の再現・ランドセルの重み体験・1年生の挨拶
- 1年生の挨拶・歌・1年生とペアになって教室に移動・ペアのまま授業体験・ランドセルの体験・教室（もしくはホール）で遊ぶ

2、 話し合った内容 テーマ「一人ひとりの子どもを大切にしたい引継ぎのありかたとは」

＜園所から小学校へ上がった環境の変化として具体的な内容＞

保護者の送迎がなく徒歩での通学（体力面）・45分授業（長時間の集中・座り姿勢）・園ごとで異なるルール（例、食事の仕方）・保護者との連絡の取り方（送迎時から連絡帳に）環境の変化により出来ていたことが出来なくなる等

- 小学校・園所での生活や大切にしている事をお互いに伝えあって子どもたちの姿について相互理解を図っていく。
- 子どものみならず保護者に対しても子どもの育ちや学校での取り組みを積極的に発信していくことで保護者も学校に対して安心感、信頼感を持って一緒に子供を育てていくことが出来るのではないか。
- 各施設それぞれのルールの突合せをできる範囲でしたり、子どもたちに新たな生活のルールを丁寧に伝えていく。
- ランドセルを背負って登下校する体力をつけてほしいが、トレーニングとしてではなく子どもたちが楽しいと思える活動の中で自然と体力が向上できるといい。
- ランドセルの重さを軽減できるように学校側も努力していく。
- 一人ひとりが主人公となり学校生活に満足していけるように工夫してく。
- 途中で投げ出さない力をつけてほしいという思いは小学校、園・所でも同じ思いである。
- 出来ないことばかりに目を向けるのではなく、園・所では土台を培ってきているので力を信じていい面を伸ばしていつてもらいたい。

3、 今後の課題・まとめ

小学校・園所が交流を続けることでお互いに知り合い、それぞれの思い、行っている取り組みを知ることができ、新たな発見もある。お互いを身近に感じながら当事者意識を持って情報を共有していくことが子どもたちや、保護者の安心につながっていくのではないかと。お互いにどのような生活を過ごしているのかを知ることで小学校は新1年生がどのような環境で生活してきたかを想像しながらより丁寧な声のかけ方ができ、園所においても新たな環境での生活について丁寧に伝え安心して引き継いでいけるのではないかと。今後も交流し続けることの大切さの共通認識を持つ連絡会となった。

東豊中・東豊台・東泉丘小学校区

【参加人数】小学校(10)名 こども園(3)名 幼稚園(4)名 保育所(園)(2)名 児童発達支援センター(0)名

1、メインテーマについて

小学校区ごとにグループで意見交換をしました。幼保こ小それぞれで力を入れて取り組んでいることが繋がっていくような交流、例えば研究紀要の交換などが必要だという意見が出ました。就学前で取り組んでいたことが就学後もうまく連結すれば、子どもたちの受け止め方もよりスムーズになり、効果的になるということでした。

昔に比べて、人とのつながりが希薄になってきている中、コミュニケーション力に力、周りをつながる力、自分の気持ちをきちんと伝える力等の取り組みについての発言がありました。共通して言えるのは、仲間と支えあいながら、ともに育つ視点だと思いません。取り組みをしていて、遅れる友達がいれば、助けたり待ったりする態度を育てることが大事だということで共通認識できました。仲間とともに育つことで、小学校に進学した時に、友達が先生に困っている子のことをうまく説明して、状況が担任に伝わったという事例も紹介されました。

2、サブテーマについて

子ども個人の情報なので、メール等のやり取りは情報漏えいの危険があるので、便利とはいえ避けるべきという意見でした。忙しい中でも、連絡会という場をもって情報を交換する機会の重要性が再認識されました。

また、連絡会よりも小規模な連絡会的な機会を持つことも提案されました。なかなか時間を割くことが難しいとは思いますが、たとえば春、小学校の授業参観時に来ていただくところから始めるのも一つだという意見がありました。

3、その他

- ・子どもたちが自分でできるように、少し待つ、根気強く声をかけるなどの支援の仕方。
- ・園や学校で頑張っていることを、家庭でも継続的に見てもらえるよう、家庭との連携を大切にします。

等の話題も出ました。

4、今後の課題・まとめ

- ・連絡会の必要性を再認識しましたが、なかなかそれ以上の機会を作るのが難しい。

南丘・新田・新田南・西丘小学校区

【参加人数】 小学校(20)名 こども園(7)名 幼稚園(14)名 保育所(園)(6)名 児童発達支援センター(0)名

1、 基調とした発表

6つの班に分かれワークショップを行った。

2、 話し合った内容

○子どもの実態

自信が持てず、失敗に打たれ弱い子どもが多い。その背景には教育熱心な家庭が多いことが関係していると考えられる。他の地域に比べ学力差が少ないという特徴はどの学校にも当てはまった。しかし、保護者が持ち物の管理などを必要以上に行っている家庭も多く、生活面での声掛けや配慮が必要な児童が増えている。園や学校では、大人から「自分の好きなように考えて行動して」と言われると、どうすればいいのか戸惑う子どももいる。受け身の姿勢ではなく、自分たちで考えて行動できる子どもに育ててほしい。

3、 今後の課題・まとめ

保育所、幼稚園ともに行事などを通して子どもたちに社会性を身につけられるような取り組みを行っている。例えば行事の際には班で話し合いの時間を設け、自分の思いを伝えることや友達の意見を聞くことの大切さを感じさせている。始めは、自分の意見ばかり通したがる子どもや、自分の言葉で話すことができない子どももいたが話し合い活動を繰り返すことで少しずつ成長し、子どもたちで考えて行動することができてようになってきている。しかし、この取り組みが就学することでリセットされているように感じる。保育園、幼稚園で取り組んだことをうまくつないでいく引き継ぎが必要ではないかという意見もあった。

東丘・北丘小学校区

【参加人数】 小学校(7)名 こども園(8)名 幼稚園(3)名 保育所(園)(3)名 児童発達支援センター(0)名

1. 基調とした発表

第1回幼保障連絡会で抽出した課題の改善に向けて、各校園所がどのように取り組んだのか順に発表。

- ・保護者間のつながりを深めるために、懇談会で保護者同士のグループ討議などを行った。保護者の孤独感をなくすきっかけができてきている。学年全体での授業（体育、敬老の集い、なかよしランド、入学式）を取り入れることで、子どもたちのつながりも深まってきている。（東丘小）
- ・保育園との交流（本の読み聞かせ）を通して、子どもたちの自主的活動の場を設けた。普段では見ることのできない、年上としてのふるまいができていた。人権参観で、『いろいろな気持ち』の学習をすることで、保護者も一緒に気持ちについて価値観の共有ができた。（北丘小）
- ・地域の他園、他施設との交流を行った。また、園内の異年齢の子どもたちとの交流も行っている。子どもたちの主体性を大切にし、年長児はプロジェクト保育として“お店屋さん”を開いている。保護者が客として来園することで、子どもたちの姿、育ちを知る機会としている。（せんりひじり幼稚園）
- ・交流（北丘小、法人内5歳児、他園5歳児、障がい者、老人ホーム、異年齢交流）を通して、様々な経験ができ多様な人との関わりが持てた。竹馬の取り組みから、上手にできることよりも頑張りを評価する雰囲気ができ、子ども同士が認め合えるようになった。同様に、できることよりも子どもが頑張っている過程を尊重する園の姿勢を保護者に伝えることで、保護者が子どもを認められるよう意識化を図った。（北丘聖愛園）
- ・地域との交流（地域の0歳児から2歳児が来園するときにはこども園の5歳児がグループで案内をする）や保護者同士の悩み事を相談しあう会を設定している。（東丘こども園）
- ・保護者間のつながり（クラスごとの親睦会）、幼児間のつながり（異年齢で遊ぶ）などを大切にしてきた。作品展では、子どもたちで考えを出し合い作品を作りあげるよう「場」を設定している。園と保護者の価値観の共有も行ってきた。（アソカ幼稚園）
- ・地域とのかかわり（病院行事や介護施設の行事への参加、サンタクロース訪問）や保護者との関わり（登降園時に必ず声掛けをする。運動会を契機に保護者同士のつながりが深まる。）などを主に取り組んできた。0歳から2歳児対象の施設ではあるが、「やってみよう」を大事にした保育に取り組んでいる。（ちびっこ保育園スカイライフ）

2. 話し合った内容

4グループに分かれて、ブレインストーミング法を使って話し合いを行った。限られた時間ではあるが、各園・各校での取り組みから参加者全員が活発に発言し今後につながる案が出された。

《今後に向けて》

- 個々のこどもの存在そのものを認める視点から、各園所から小学校へ、小学校から各園所への引継ぎが重要。実際のこどもの姿を見ることが引継ぎにおいては効果がある。
- 2歳から3歳への接続、年長から小学校への接続をスムーズにするために情報共有が必要。
- 0歳から2歳が対象の園では転園等の課題があり保護者間交流にも限界があるが、今ある環境の中でできることについてアイデアを共有できる本連絡会等の存在は重要である。
- 各園所で、様々な交流ができるような環境づくりをしていく。
- 保護者間の交流の機会を増やすことについては、課題もあるが必要である。先輩の保護者からのアドバイスなども子育ての安心につながる。
- 小学校での学びの在り方について、第一子の保護者の中には不安をもつ保護者がいる。園所で保育者が保護者に対して、折に触れて説明することで、保護者の不安解消の一助となる。
- 保護者の安心が子どもの安心につながる。安定した環境の中での子育て子育ては「自信」の獲得につながり、次の「やってみよう」につながる。
- 失敗をすることが「できること」につながる。失敗を恐れずにチャレンジできる場を保育・教育として設定していくことが大事。

3. 今後の課題・まとめ

保護者・地域・園所・学校が「価値観の共有をする」ことが重要というサブテーマをもとに取り組んできたことで、小学校区として共通の土台を確認しあうことができた。

保護者や子どもたちの「やってみよう」を引き出すには、具体的な声掛けや仕掛けが重要である。個々の児童や保護者が、主体性をもって自身の納得の下に考え判断し行動できるよう働きかけていきたい。また、「つながる」ことで視野が広がる。保護者同士または学校園所の担当者等子どもを媒介にしてつながっている者同士、縁を大事にし、互いの状況を理解しながらできることを見つけていきたいと考える。

年度が変わると担当者が変わる。今回の連絡会で話し合った案を各校園所に持ち帰り、次につなげていけるよう、今から実践していくことが大切である。

一方で、担当者が保育・授業に参加することの必要性は大きいですが、その時間を捻出することに課題がある。

桜塚・南桜塚小学校区

【参加人数】 小学校(7)名 こども園(1)名 幼稚園(12)名 保育所(園)(6)名 児童発達支援センター(0)名

1、 基調とした発表

講演「保・幼・小の接続連携」

講師 あけぼの幼稚園 園長 安家周一

- ①認定子ども園教育保育要領改訂について
- ②低年齢児の保育内容の記載イメージについて
- ③幼児期の終わりまでに育ててほしい姿
- ④幼児期固有の教育について

2、 話し合った内容

参加者 26 名を 5 つのグループに分け、各グループで自己紹介と現在の子どもの様子や課題について話し合った。

- ・文字や数字の習得は小学校からで十分。聴く力や伝える力を育てて送り届けたい。
- ・保幼小は、分からないことがあれば、その都度交流できるようになればいい。
- ・幼稚園で大切にしていることは、問題解決できる力、目に見えない力を大切にしている
- ・小学校入学前に読み書きができる子とできない子の差は小学校の6年間で差がないように感じる。就学前にやるべきことを大事にする。
- ・過ごしている時間がばらばらの子どもたちが集まって小学校に入学するということを確認した。

3、 今後の課題・まとめ

今後も、互いに取り組んでいることや、出来事（行事）を具体的に伝え合うことで、入学前の子どもや保護者の不安を軽減させたい。つまり、小学校は0からのスタートでなく、幼稚園・保育園・こども園で積み重ねたところからの発展と考えていく。

熊野田・泉丘小学校区

【参加人数】 小学校(18)名 こども園(3)名 幼稚園(6)名 保育所(園)(6)名 児童発達支援センター(0)名

1、 基調とした発表

○各校、各園の取り組みと子どもの実態の交流。

【泉丘小学校】

- ・聞き方、話し方に焦点を当てたコミュニケーション活動。
- ・自分で課題を見つけ解決していく力や、子どもたち同士で問題を解決していく力が必要。

【熊野田小学校】

- ・自分の困ったこと、嫌なことを主張したり解決できたりしている。
- ・避難訓練、運動会等で幼保と協力して取り組んでいる。

【ゆたかこども園】

- ・集団遊びを通した仲間作り「玉取りゲーム」「メチャビー」「王様じゃんけん」
- ⇒伝える力、聞く力、考える力が他の場面に活かされている

【旭丘こども園】

- ・子ども一人ひとりが愛され認められることを大切に。
- ・子ども同士で遊びを作ったり、課題を乗り越えたりしている。

【東豊中幼稚園】

- ・自分で考えて取り組む、自立性を育む「グループタイム」
- ⇒自分の思いを伝える、友だちの思いを聞く、相手の思いに気付く

【熊野田幼稚園・保育園】

- ・自由遊び⇒友だちとの関わりの中で、ルールや関わり方を学ぶ。
- ・コーナー遊び⇒自分たちで考え、伝える力をつける。

【おひさま保育園】

- ・お店屋さん⇒子どもたちで意見を出し合いお店を作った。失敗から学ぶ。
- ・地域の高齢者との関わりを持たす。

【旭丘かいせい保育園】

- ・主体性を育てる。自分たちで考える。
- ・年上は年下の世話をし、年下は年上を見て学ぶ。

【あい保育園】

- ・自分の夢(夢を持つ)を、自分の力で実現(主体性)
- ・食育⇒メニューは全て和食

2、 話し合った内容

2月21日(水)に幼保小の交流会を実施。園から小学校に来てもらい交流する。

3、 今後の課題・まとめ

今後も、幼保小の交流を実施していく。

中豊島・緑地・寺内小学校区

【参加人数】 小学校(3)名 こども園(5)名 幼稚園(3)名 保育所(園)(5)名 児童発達支援センター(0)名

1、 基調とした発表

サブテーマ「相手の立場に立って話を聞く」

2、 話し合った内容

小学校・寺内小学校・・絵本の読み聞かせや言葉集め、言葉の文作りなどによって語彙が増えた。

気持ちのカードを使うことによって、気持ちを表すのは効果的だった。トラブルがあった時は丁寧な対応をし、話を整理して、子どもから言葉を引き出すようにした。

・緑地小学校・・自分に自信がないと言葉に表すのは難しいと感じたので、気持ちカードを使って、気持ちを伝えられるようにした。

・中豊島小学校・・絵本の読み聞かせを毎日している。また、グループ活動を通して話す機会を作ったり、毎朝文章にして伝えるようにした。週末にはあのね帳を書いたり、作文での発表もしたりした。

こども園・てらうちこども園・・集団遊びや触れ合いあそびを通して、友だちとのかかわりを多く持つようにした。友達のことを知るきっかけとなった。また、自分の意見を言うだけでなく友達の話にも耳を傾けられるようになった。友だち同士で仲立ちしあう姿も見られた。

・服部こども園・・言葉がきつくなっているのが気になる。言葉カードを年中より取り組み、当番は自分の気持ちを伝えていくようにした。うまく言葉に出来ない子は表情から周りの子が読み取る姿が見られたり、いろんな友だちがいることを知りそれぞれ違っていいんだと思えるようになった。

・ほづみ保育園・・話し合う機会をたくさん作ってきた。話し合いを進めていくことから、先生に聞くのではなく、自分たちで解決しようとする姿が見られるようになった。自分から意見が言いにくい子へは傍に寄り添い、できるだけ自分の言葉で言えるようにしてきた。異年齢の関わりを通し相手の気持ちを聞く姿が見られた。

保育園・あい保育園寺内・・子どもの手本となるように職員が丁寧な言葉で話すよう心掛けた。声の大きさの調節ができるよう大きさ表を作る。状況に応じ意識して話をするようになった。

・豊中あけぼの保育園・・言葉がきつくなっている為ちくちく言葉、ふわふわ言葉とはどんな言葉か話し合った。自分が言われて嬉しい言葉を使えるように、話をするときには、相手の事を考え言葉を選び話す姿が見られた。朝や帰りの集いでは、みんなに話を聞いてもらっている。小さいころからの積み重ねで、やさしい言葉が育っているように思う。

・ゆたか保育園・・自分自分になりがちだったので、絵本を使って登場人物の気持ちに気付けるようにした。また、終りの会でも発表し合う機会を作るようにすると、友達の気持ちを考えられるようになった。これからも話すことや聞くことを続けていきたいと思う。

・豊中ぶんぶん・・保育者が子どもの気持ちを受け止めることで、安心して自分の気持ちを言葉で伝えられるようになった。丁寧な言葉掛けと丁寧な関わりを大切にすることを心掛けている。

・絵本の森・・自分の気持ちを身振り手振りを使いながらも伝えられるようになった。2歳児は言葉でのやりとりが増えたため、子どもが自分の言葉で話せるように待つことを大切にしている。

幼稚園・服部幼稚園・・行事を通して助け合う姿や信頼関係も深まった。自分たちで考え行事を進めていく事で、達成感を感じられ自信へと繋がった。このまま小学校へも自信を持っていけるようにしていきたい。

曾根幼稚園・・テーマを決めて話し合う機会を作った。発表だけでなくリズム打ち等みんなの前でする機会を作った。出来たことが達成感へと繋がった。単語ではなく文章で相手へ気持ちを伝えられるようにしたい。

・服部みどり幼稚園・・朝の集いで自分の体調を話したり、話すだけでなく聞く機会もたくさん作った。

発表会ではどうしたいか話し合い、意見を出し合う中で、自分たちでどう決めていくかが今後の課題である。

・ひかり幼稚園・・行事をいちから子どもたちで考える。まずは自分の意見を伝え、次に相手の気持ちを知る。保育士が仲立ちしながら気持ちの折り合いをつけるようにした。

3、 今後の課題・まとめ

研修会をしてたくさんの方に来ていただいたので、これからも行っていきたい。

交流会・・・緑地小学校 2月8日10時～10時40分

寺内所学校 2月16日9時50分～11時

豊島・豊島西小学校区

【参加人数】 小学校(7)名 こども園(1)名 幼稚園(5)名 保育所(園)(5)名 児童発達支援センター(2)名

1、 基調とした発表

「1年生で大事にしていること、身につけさせたいこと」

- ・あいさつ ・朝の用意 ・一日のスケジュールを明確に ・自分の言葉で伝える
- ・チャイムで動く ・当番の仕事 ・給食 ・マナー ・整理整頓 ・持ち帰る物
- ・読む力 ・発表するとき ・話を聞くとき ・ペアでの話し合い ・ノート指導
- ・学習の振り返り ・1、6年生きょうだい学級でそうじ
- ・「ありがとう」「ごめんなさい」がすぐに言える子に
(上のテーマそれぞれについて、細かく発表していただいた。)

☆授業の感想

昨日の学習をしっかりと覚え、取り組めていた。先生が褒めながら過ごしている様子がよく分かる。発表時椅子を入れるなど、毎日繰り返していることで身につけている。園の子どもたちにも小学校の様子を伝えたい。

2、 話し合った内容

4グループに分かれて話し合った。

- ・園での取り組みとして、生きていく力をつける為、運動会などを通して積極性・主体性を大切にして自分の気持ちを出せるようにしている。特に低年齢では、できるだけ自分で選択させ、自分で考える力をつけさせている。幼保小で繋がり連携を取ることで子どもたちの成長に繋がる。
- ・発表にもあったが、園でも話を聴くことを大切にしている。興味を持ち聴けるような内容にしていく必要がある。中には、本当に伝えなければいけないこと程声が小さくなってしまいう子どもがいる。どのように相手に伝えればいいのか教えていく必要がある。
- ・幼、保でも発表と同じような取り組みをしている。小学校で力をつけていけるのは幼、保での取り組みがあるからだと感じる。コミュニケーション能力が低いと感じることがあるので、語彙力を伸ばしていく必要がある。
- ・給食がなかなか食べられない園児がおり、食わず嫌いも多い。お弁当の種類も少なく、食卓にも色々な品が並ばないのではないか。園から大勢進学する小学校とは連携を取りやすいが、少人数が進学する小学校とはなかなか連携が取れないことに対して不安がある。うまく繋がれるような方法を考えたい。近隣の園でも遅刻が多く、小学校でも遅刻が多い。子どもたちに生きる力、学力をつけさせるため、声をかけ続ける必要がある。

3、 今後の課題・まとめ

- ・今年度のテーマでは広すぎるので、もう少し絞った方が良いように感じる。

- ・来年度も第二回で発表を行う。

発表	ほづみ幼稚園
司会、記録	豊島西小学校
芽ばえ作成	ほづみバブー保育園
第一回会場	豊島小学校

豊島北・原田小学校区

【小学校（7）人 こども園（2）人 幼稚園（2）人 保育園（4）人】

（1）基調とした発表

“コミュニケーション能力を高めるためには” 3つのグループに分かれてグループ討議する。

（2）話し合った内容

それぞれの現状

（小学校）

- ・子どもたちが自主的に話をするために、少人数での活動を取り入れている。
- ・話し方、聞き方の型を示すことで、話すのが苦手な子どもも、話しやすい環境をつくっている。
- ・友だちの発表に「いいね。」と拍手をすることで、安心して発表することができる。
- ・45分間いすにすわって、集中することは難しいため、活動を多く取り入れるようにしている。
- ・子どもたちだけで、話し合い活動ができるように、工夫している。
- ・言葉より先に、手や足がでてしまう子どももいる。落ち着く場所を提供し、時間をとって話しを聞くようにしている。
- ・学級の中で、“チョキは付け足し” “パーは違う意見” というルールをつくっている。

（保育所（園）・幼稚園・子ども園）

- ・少人数（一クラスを3つに分ける）で活動ができるように、配慮している。
- ・4歳児クラスでは、自分の気持ちを言葉で表現できるように、担任が助言しながら話を聞いている。
- ・家庭の関わり方で、子どものコミュニケーション力に差があるため、家庭での過ごし方を保護者に伝えている。
- ・いすに座れない子どもが増えてきており、体幹の弱さを感じている。
- ・グループの中で当番を決め、子どもたち同士で話しやすい環境をつくっている。

（3）今後の課題・まとめ

- ・聞く力が弱いため、話を最後まで聞く習慣をつけさせたい。そのために、視覚的に話を聞くルールを提示し、理解させていく。
- ・単語で自分の思いを表すことが多く、どうしたいかまでは伝え切れていない。「それをどうしたいの。」というように、最後まで言えるように促していく。
- ・保護者自身も聞く力が弱い。家庭での過ごし方を見直していくよう、伝えていきたい。

以上のことを 幼保小で同じように、取り組んでいく。

小曾根・北条小学校区

【参加人数】 小学校(10)名 こども園(6)名 幼稚園(3)名 保育所(園)(0)名 児童発達支援センター(0)名

1、話し合った内容 ※3グループに分けて、グループ毎にテーマを決めて討議・交流 (第1グループ)

◆テーマ：校舎で困っていること→相互で育てたい力

- ・見通しを持ってない。→自分の意思を通せる
 - ・長時間座っておれない→けじめある行動ができる
 - ・小学校入学で赤ちゃん返りする。→園での頑張りを伸ばす
 - ・集中力が持続しない、忘れ物が多い、時間を意識できない→自分のことは自分でできるよう
- (第2グループ)

◆テーマ：子ども・保護者の困った状況

- ・1年生の中に親頼りの発言が見られる。
- ・小学校進学時に友達関係を上手く結びにくい児童がいる。
- ・小学校進学時姿勢を維持するのが難しい子どもがいる。2年生になるまでに身につけさせることを目標に取り組んでいる。
- ・つまづいている子どもに対しては、学校でもフォローするが、家庭での援助や褒めて自信をつけさせることも必要。家庭が子ども任せにせず、よく見ていく必要がある。
- ・子どものことをよく理解せず、1年生になったらできて当たり前と思っている保護者や、子どもが登校を渋ったら、行かなくてもいいと発言する保護者がいる。

(第3グループ)

◆テーマ：子どもにつけたい力

(状況)・自分のことは発言できるが、人の話を聞くことができない。

- ・単語で話す。
- ・時間認識が弱い。

(改善に向けて)・「聞くことのあいうえお」を学校全体で取り組む。

- ・家庭でもしっかり子どもの話を聞いてもらう。段階を追って、2語文、3語文で話せるように。頭の中で筋道を立てて伝える力を育成する。
- ・周りを見て行動できるように。
- ・遊びの中から必要な力を身につけさせる。

2、今後の課題・まとめ

○幼保小それぞれが困っていること、取り組んでいることの交流をすることでできた。子どもの成長を願って、今後相互理解を深め、さらに連携を深めて取り組みを進めていくことの重要性を再認識した。

○次年度に向け、連絡会の在り方を検討する必要がある。

○園訪問聞き取りシートの統一化を図れないか検討する。

庄内・野田・島田小学校区

【参加人数】小学校(8)名 こども園(8)名 幼稚園(12)名 保育所(園)()名 児童発達支援センター()名

1、 基調とした発表

くりのみ幼稚園から別紙及び写真資料をもとに、先日の庄内小学校での子どもたちの交流会の報告があった。当日、園児が大変プログラムを楽しみ、小学生になることに期待を膨らませる機会になったことや、小学生にとっても案内役を責任をもってやりとげたことは大きな自信となったことの報告があった。2日間にわたって、約180人の園児が参加した。

2、 話し合った内容

今年度の「幼保小教職員の連携を深める中で子どもたちにつけたい力とは」のメインテーマに即して、次の3点に分けて子どもの育ちの円滑な接続についての工夫や取り組みを交流した。

①45分の学習時間の集中力の育成

- ・同じことを45分は難しい。長くても30分。体育遊びは40分、イングリッシュは30分の設定で行っている。
- ・年中から入園した子は、自由遊びになると何をしたいかわからなくて、遊びに没頭できにくい子もいる。
- ・45分座っているという経験が、小学生になって初めてだということは、かなり厳しい状況になる。子ども園も6年間で育てることを目標にしている。年長になったら話し合いであそびや劇の内容を決めていく。小学校の生活を意識した活動をしている。
- ・小学校の始まりは早く、登校時間を守ることに課題。子ども園は10時までにぼつぼつと来る子もいる。スムーズに小学校の生活に慣れるには、親の生活環境も影響する。

②言語を介在とする学習をめざして

- ・0歳からと3歳からではコミュニケーションの姿が違う。0歳からの「ことば以前のコミュニケーション(表情やしぐさ)」で理解しあうことも大切にしている。自分の思いを伝えることを、あきらめずにできる子を目指している。
- ・しっかり話をきいてもらっている子は、話をきいたりしたりする力がある。経験の差や家庭環境の差は大きい。園でも先生と1対1で話したい子が多い。忙しい状況だが、静かなところで1対1で話すことを大切にしている。(小学校でも同様である。)子どもがゆっくり話せる環境づくりも大事。

③長さ・重さなどの物理的な感覚の育成

- ・遊びのなかで学ぶ。絵の具やどろだんご、色みずあそびなど、遊びのなかですいているからこそ、小学校で理科や算数などにつながる。失敗からの成功体験がある。
- ・遊びにも意図的なしかけが大事。

3、 今後の課題・まとめ

子どもは教師とのかかわりだけでなく、子ども同士のかかわりのなかで成長する。5歳児の姿を3歳児が見て、まねて学んでいるように、異年齢のかかわりも大変重要。話し合うことや、支援が必要な子への対応も、上の子の姿を見て学んでいく。幼保小の教職員がこのことを大切にしながら、幼保小連携して指導を展開していくことが重要である。

庄内南・庄内西・千成小学校区

【参加人数】 小学校(7)名 こども園(8)名 幼稚園(5)名 保育所(園)(0)名 児童発達支援センター(0)名

1. 基調とした発表

今回の連絡会では「子ども園・幼稚園と小学校がスムーズにつながるために必要なことは？」というテーマでワークショップを行った。ワークショップの内容は、

- ① 子ども園や幼稚園が小学校入学にあたって大切にしているとりくみは何か
- ② 小学校が新入生の子どもたちに対して大切にしているとりくみは何か

を中心に各学校園所の実情を交流した。

さらにその中でもとりわけ本校区で大切にしたいと思われたとりくみについて意見交流する貴重な機会となった。

2. 話し合った内容

A ワークショップ①

子ども園・幼稚園・小学校で卒園から入学にあたって意識的に大切にしている取り組みについて交流した。なかでも「困った時に『助けて』と言えること」「時計を見て行動できること」「行動の切り替えができること」「友だちの話をきちんと聞くこと」「自分の思いをことばで伝えること」「挨拶や基本的な生活習慣」といったことを意識しているという意見が多かった。

B ワークショップ②

それぞれのグループでたくさんの意見が出されたが、その仲間分けをすると主に、入学の不安を取り除くとりくみ、基本的な生活習慣を整えるとりくみ、子どもたちに地震や自尊感情を高めるとりくみ、集団で生活するうえで必要な人間関係形成力やコミュニケーション力を高めるとりくみ、小学校の学習活動につながるとりくみ等に分けて整理することができた。

C 全体を振り返っての意見交流

それぞれのグループの話し合いのシェアリングを重ねることで、全体で確認されたことは、①子どもたちが安心して小学校に入学する仕掛けが大切であること、②基本的な生活習慣だけでなく、他者とのコミュニケーションや問題解決の力をつけることが安心して学習に向かう姿勢の土台となること、③遊びの活動の中で「学びの芽」を育てることを意識することが小学校の学習活動につながっていくことなどが確認できた。

3. 今後の課題・まとめ

今回の連絡会では、子ども園・幼稚園・小学校が小学校入学という段差を子どもたちがスムーズに乗り越えるためにそれぞれがどのような取り組みをしているのかを知るとともに、重なり合うところを探ることで、これからの連携の中身をより具体的にしていこうという「ねらい」があった。実際の連携の内容は多岐にわたるが、今後もしこうした話し合いを重ねていくことで、子どもたちのサポートをより実りのあるものにしていく必要があるということが、成果でもあり今後の課題でもある。

豊南・高川小学校区

【参加人数】小学校(8)名 こども園(8)名 幼稚園(6)名 保育所(園)()名 児童発達支援センター()名

1、基調とした発表

●子どもたちの実態を交流しあい、学校とこども園、幼稚園の共通の悩みからどのように解決していいのかそれぞれの取り組みを紹介しあっていく。

・高川小学校のから保護者の背景や子どもたちの実態報告を中心にしながら交流していく。

子どもたちの家庭的背景をとらえながら、SSWなどを利用したりいろんな援助を使いながら子どもたちが学校にこれたり学習に必要な準備をしていき、子どもたちがさみしい思いをさせないように支援し学力保障をしている。

・1回目の連絡協議会で送り出した子どもたちの様子を伝えてもらうことや入学までにこんな力を育ててもらったらという小学校からの話を受けて各園で大事にしてきたことの伝えあいをしていき「どきどきわくわくとよなかつ子」の資料も確認しあっていく。

2、話し合った内容 (それぞれの取り組み)

・体づくりを力を入れ、園庭遊びでドッジボール、サッカーを取り入れ、集団遊びでは自分たちでルールを決めて友だちとのトラブルも大事にしながらルールを守ることの大切さを感じている。

・なわとび、さかあがりなどの個人遊びは積極的ではないので目標をチャレンジカードを作って挑戦する気持ちを大事にしてとりくむ。

・「出来る限りできることは自分で考えて自分たちでやっていく」ということを大事にしてき、友だちとけんかをして相手のごとだけでなく自分にも返せるようにしている。

・食育で自立をうながしたり、体幹をきたえ柔軟性をきたえること、自分のこと大事にしてほしくて絵本作りにとりくむ。

・色々な家庭的背景があるが一人ひとりの子どもたちの姿をしっかりと受け止めながら、みんなとの生活や遊びを保障してきた。

・家庭によっては、準備は親の責任ですといった意識や子どももしてもらって当たり前といった姿があり、どんな力を子どもたちに育むのか悩んでいる。

・身のまわりのことは自分でやるということを見守っていき、小学校に向けての具体的な活動として上履きを立ってはいたり、給食時間も20分という感覚を子どもたちに知らせていくことなど小学校生活につながることもとりくんできた。

3、今後の課題・まとめ

・園や幼稚園での保護者の背景には違いはあるので悩みのちがいはあるがそれぞれの問題に対してのとりくみや1年生に向けての活動をしている。

・それぞれのこども園、幼稚園で大事にしてきたこと、気にかけてきたことを伝えたり子どもたちの具体的な実態を伝えあうこと、ほんとうにしんどさを抱えている子どもたちの事を知ったりすることで一人ひとりが小学校に向けて安心して一貫性のある教育を保障していくことに繋がっている。